

《薬局サーベイランスコメント》

『第5週（2月1日～7日）のインフルエンザの推定患者数は100万人を上回ったが、第6週（2月8日～14日）は更に患者数が増加すると予想される。』

2016年2月9日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) からの2016年第5週（2月1日～7日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は5週連続で増加し、前週の値（741,778）を大幅に上回って1,198,054と100万人を上回りました（図1）。また、2月8日（月）の推定患者数は314,657と今シーズンの1日当たりの推定患者数の最高値（2月1日；251,042）を大幅に上回っており、第6週（2月8日～14日）はさらに患者数が増加する可能性が高いです。各都道府県別の第5週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、北海道、福井県、広島県、岐阜県、大分県、神奈川県、茨城県、東京都、奈良県、栃木県、愛知県の順となっており、47都道府県全てで前週よりも患者数の増加が見られています。

2015年第36週から2016年第5週までの累積の推定患者数は2,656,741(2,657,000)であり、年齢群別では5～9歳（22.5%）、40～49歳（13.3%）、30～39歳（13.0%）、10～14歳（12.2%）、0～4歳（11.1%）、50～59歳（7.4%）、20～29歳（7.2%）、15～19歳（5.4%）の順となっています（図2）。第5週だけで見ると14歳以下の年齢群の割合は48.3%（推定患者数578,096）と半数近くを占めています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（1,026検体解析）は、A/H1pdm 50.2%、B型 29.2%、A/H3（A香港）亜型 20.6%の順となっています（図3）。また、直近の5週間（2016年第1週～第5週；これまでに625検体検出報告）では、A/H1pdm 60.2%、B型 31.5%、A/H3（A香港）亜型 8.3%の順となっていて、現在の本格的な流行はA/H1pdmとB型インフルエンザの混合流行であると考えられます。

2015/2016シーズンのインフルエンザの推定患者数は1月に入って急増し、第4週より流行は本格化して、第5週の1週間当たりの推定患者数は100万人を上回りましたが、2月8日の推定患者数は今シーズンの最高値であり、第6週は更に患者数が増加す

ることが予想されます。過去の流行を参考にすると、この第6週が流行のピークとなる可能性が高いと思われますが、B型インフルエンザの患者数が増加してきており、その動向次第では現在の本格的な流行状態が2月いっぱいには継続する可能性があります。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

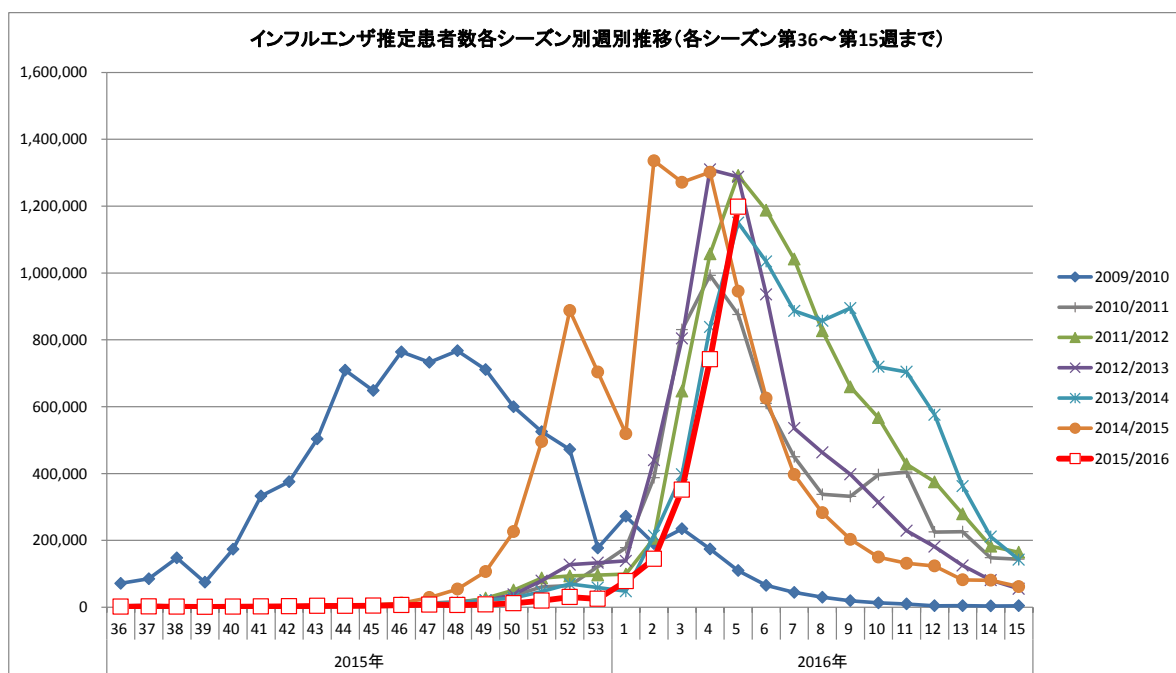


図1. 過去5シーズンと今シーズン（2015/2016シーズン）の第36～第15週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

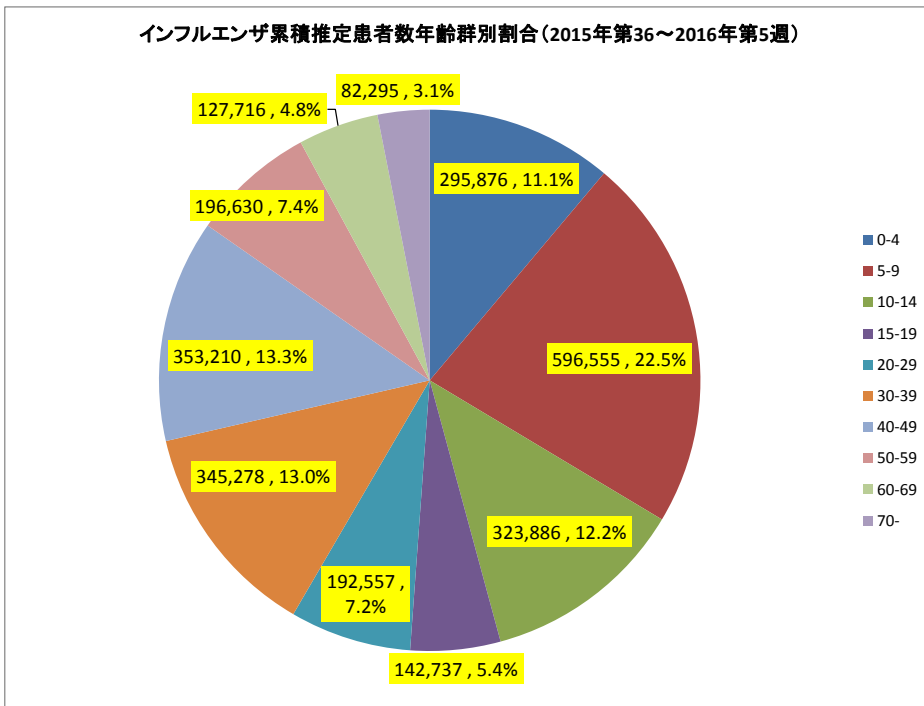


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36～2016 年第 5 週、累積推定患者数= 2,657,000)

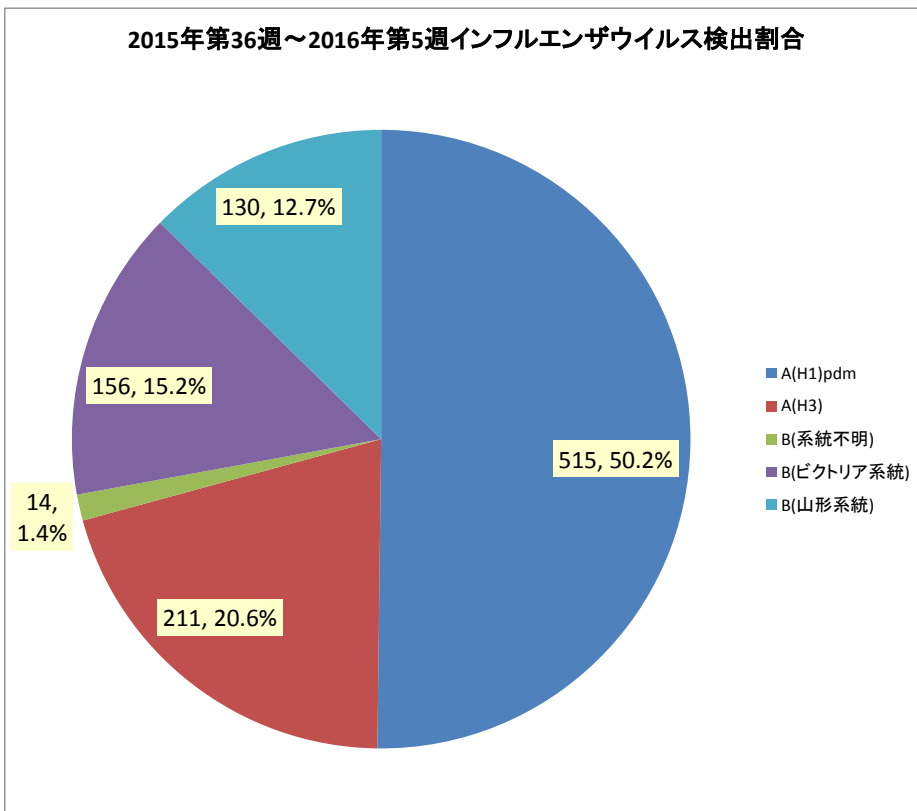


図 3. 2015 年第 36～2016 年第 5 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=1,026)